

## 令和2年決算審査特別委員会会議録

1. 日 時 令和2年9月30日（水）
2. 場 所 市役所東庁舎4階 議場
3. 付託事件 日程第1 議案第10号 平成31年度白井市歳入歳出決算の認定について  
日程第2 議案第11号 平成31年度白井市水道事業会計決算の認定について
4. 出席委員 岩田典之 委員長・和田健一郎 副委員長  
柴田圭子 委員・影山廣輔 委員  
石井恵子 委員・植村博 委員  
中川勝敏 委員・平田新子 委員  
徳本光香 委員  
長谷川則夫 議長
5. 欠席委員 なし
6. 説明のための出席者  
市 長 笠井喜久雄  
副市長 高橋俊浩  
教育長 井上功  
総務部長 中村幸生  
企画財政部長 津々木哲也  
市民環境経済部長 岡田光一  
福祉部長 豊田智美  
健康子ども部長 岡本和哉  
都市建設部長 高石和明  
会計管理者 風間信也  
教育部長 鈴木直人
7. 会議の経過 別紙のとおり
8. 議会事務局 事務局長 石井治夫  
主 査 萩原靖殖  
主 事 補 小原陽子

## 委員長の挨拶

○石井治夫議会事務局長 本日は御苦労さまでございます。定刻となりました。会議に先立ちまして、岩田委員長より御挨拶をお願いいたします。

○岩田典之委員長 皆さん、こんにちは。本会議に引き続き御苦労さまでございます。昨日まで連続5日間の大変ハードなスケジュールでございますけれども、慎重なる審査を賜りまして本当にありがとうございます。今日は最後までございますけれども、討論、採決が残っております。どうか最後までよろしくお願いいたします。

○石井治夫議会事務局長 ありがとうございます。

それでは、議事等の進行につきましては岩田委員長をお願いいたします。

## 会議の経過

開会 午前11時30分

○岩田典之委員長 ただいまの出席委員は9名でございます。委員会条例第16条の規定により、定足数に達しておりますので、これより決算審査特別委員会を開会いたします。

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付の日程表のとおりでございます。

(1) 議案第10号 平成31年度白井市歳入歳出決算の認定について

○岩田典之委員長 これから日程に入ります。

日程第1、議案第10号 平成31年度白井市歳入歳出決算の認定についてを議題といたします。

質疑は既に終了しておりますので、討論を行います。

これから討論を行います。

初めに、反対討論の方ございますか。

影山委員。

○影山廣輔委員 反対の立場から討論したいと思います。

反対の理由は、鉄道交通推進事業やバス交通推進事業といった公共交通施策において、大いに瑕疵があるからです。

人によっては、たかが1事業、たかが1施策で決算全体を反対なんて大げさだとおっしゃる向きもあるでしょうが、そこにはたかだか1施策呼ばわりで片づけられない問題を二重の意味ではらんでいます。

まず第一に、この公共交通施策自体が、白井における地域課題の一丁目一番地であるということ。

皆様も重々御承知おきと思いますが、市が定期的に行っている住民意識調査では、毎回のように、鉄道の運賃問題対策や路線バスや循環バスの利便性向上の取組といった施策が重要度が高く、満足度が低い重点改善分野に位置づけられ続け、人によっては白井は交通不便を除けばほかは何も問題はないと言われるぐらいです。

そして、今回の平成31年度決算で言えば、鉄道運賃に続く重点改善分野の常連とも言える、循環バス事業をはじめとする道路公共交通施策において、事態をより悪化させていること、それに対しまともな反省や総括ができていないことが疑われます。

例えば、循環バス事業で言えば、先の循環バスナッシー号は運行改悪以来利用者を減らし続け、ついにはバスの運行委託料の不足の穴埋めにほかから流用するまでに至りました。よく運行内容を変えた後はどうしても利用者は一時的に減るものだと言われますが、このたびのマイナスの実績はそういった一般論の範疇を超えています。

また、この点を指摘された際に、常に言われるのが、ほかの交通手段の利用云々というものがありますが、運賃負担や乗換え不便といった現場での不都合を改善するなどの代替案もなく、ただただ不便を一方向的に押しつける、こうした姿勢も問題です。

第二に、これら施策を実行するに当たり、住民のニーズや要望、意思を反映できているかどうかという点に問題があり、最近では、第1の理由よりもこちらのほうを重く感じているところです。

行政の決算というのは、単なる数字の帳尻合わせではなく、施策の結果がどこまで住民の願いに近づいたか、その過程に問題がなかったということも考えなければならず、私としてはそちらのほうをより重視しております。

今回の決算の範囲である平成31年、令和元年度とえば、富士地区を中心とした住民、循環バス利用者から、ナッシー号の早期改善を求める要望書が128筆の署名とともに行政に提出された年でもあります。その内容は、前年8月の運行改悪により生活に大きな支障を来し、免許返上を考える高齢者にとっても二の足を踏む状況であり、バス便の実質的な減便は富士地区の住民にとっては死活問題とまで訴えるものでした。

ちなみに、この種の訴えは今に始まったことではなく、富士地区以外の地区でも度々起きていることですが、これに対し、行政は通り一遍の説明で事を終わらせようとし、住民の願いを一顧だにしないという問題があります。

地域公共交通活性化協議会でも、このことをあまり重視しないばかりか、会議の進行役の学者先生が、私はこれで行きたい、ここで言うこれとは、執行部から出された循環バスの変更案のことですけれども、私はこれでいきたいという、初めに結論ありきを疑わせるような発言まで飛び出す始末であり、住民ニーズの反映に向けた努力という点で大いに疑念が持たれます。

ちなみに、余談ではありますが、最近、9月17日に、今年度第1回目となる白井市市民参加推進会議を傍聴しました。その中で、委員のお1人である流通経済大学の先生が、市民参加とは何かという

説明をされ、その中で、住民参加において着目する点として、市民にしっかり参加の機会が与えられているか、多様な市民が参加しているか、市民に対して情報などが公開されているかの3点を挙げられました。

その3点自体はいちいちもつともだと思いますが、同時にこれでは少し足りないなということも感じました。なぜなら、この3項目だけでは、外形的に住民の意見を聞くふりをする、あるいは、聞いた方がいいが聞きっ放し、おざなり、棚ざらしでも、やることはやったのだから間違いないとされかねないからです。

これら3点に加えて、住民意思、ニーズがどれだけ反映されたか、反映に努力したかも問われるべきではないでしょうか。そうでなければ、住民からは、白井市というところは人の聞くふりだけして結局何もやってくれないとみなされ、住民参加は形骸化し、行政の信用は落ちるばかりです。

こうした悪い例が、住民参加をかねてから標榜している白井市において全くないのかと言えば、肝腎の公共交通施策の部分で住民の声の聞くふり、聞きっ放しが多く見られます。

こうした傾向は、今に始まったことではなく、第5次総合計画策定の過程においても、北総線高運賃対策が盛り込まれていないのはおかしいという声が多数上がったにもかかわらず、執行部は最後までこの問題を計画案に盛り込まなかったという事例もかつてありましたが、平成31年度ではそうした悪い傾向が施策レベルでも鮮明に表れたと言えるでしょう。

それ以外の施策で言えば、小・中学校にエアコンを入れてくださったこと、災害対応に尽力されたこと、市のPRなどに尽力されていること、基本的な福祉の分野で十分な対応をされていること、市史編さんとなし坊ホール天井の安全性が心配ではありますが、それを除けば、文化施策でも尽力されていること、環境保全のために奮闘されていること等々、などなど、今回の決算内容の大半は私も支持するところです。

しかしながら、1つのジャンルにおいてあまりにも大きな瑕疵があるため、その裏で泣いている住民の存在を思うがために、気持ちよく賛成討論ができないことは大変心苦しく思います。

次回の決算においてはそのようなことがないように願いつつ、討論を終わりにしたいと思います。

以上です。

○岩田典之委員長 次に、賛成討論の方ございますか。

植村委員。

○植村 博委員 平成31年度歳入歳出決算に賛成の立場での討論を行います。

2050年に日本は持続可能か、このテーマで、3年前、AIを使った2万通りのシミュレーションから政策の選択肢が提起されました。都市集中型ではなく分散型の社会システムに転換していくことが徹底的な意味を持つというもので、地方分散型へと転換する変革の必要性を突きつけられました。地方創生です。

さて、今回の決算特別委員会、単年度でこれは駄目、これは正解と決めつけることはどうかと思っ

ております。計画性、弾力性、積極性はどうかかと考えるとともに、行政の心が敏感で柔軟性があってほしいと思います。

審査意見書を見ると、このような厳しい状況の中で、多様化する市民ニーズに対応していくためには、市民と情報を共有し、意見を伺いながら、一緒にまちづくりに取り組んでいる姿勢は評価できる。今後も市民の皆様や民間の力を生かしながら、持続可能なまちづくりを進めていくことを望むものであるとありました。私もそのように思います。

その上で、行政本来の目的である質の高い行政サービスの提供はどうか。行政水準の確保と維持、その向上はどうか。また、特に重要なことは何かと考えたとき、お金を幾ら使ったかではなく、住民のためにどのような仕事をしたか、その仕事の出来高と出来具合を見ることが大切だと思っております。

現代は分かりやすいものを求める風潮になっています。AかBか、是か非か、二者択一を迫るようになっていきます。しかし、分かりやすいということは、言い換えれば今さえよければそれでいいという考え方でもあります。将来のことを考え、持続可能な選択が求められています。声の大きい世論、多数派の声を、聞こえにくい弱者の声を、市民の不安を受け止めつつも、政策は効果や合理性を明確に、丁寧な説明、説得が必要です。市民の不安感情と耳を傾け過ぎる行政と相互作用の中で、根拠の明確でない政策が採用されれば、そのツケが現役世代、将来世代に引き継がれなくてはならない、分かりやすい民意に引きずられやすいのであれば、理性的にブレーキをかけなければなりません。それに、行政は取り組まれていると思います。

歳入歳出決算の中で、確実性をもって受け入れられてきた事柄が、時代の経過の中で誤りが明らかになったり、改善されたり、その確実性が揺らいだりしてしまうこともあります。基本的には、人間の行う努力は常に修正、改善され続けていくべきであり、それによって、安全、安心、確かなものとなっていくと思います。そして、その流れ自体が、1つの指導理念になるのではないのでしょうか。その思いで、個々の事業サービスを見てみると、何のためにとの目的が浮かび上がってきます。この年度、その後、その将来とつながる持続可能性を考慮された取組と評価し、賛成討論といたします。

○岩田典之委員長 次に、反対討論の方ございますか。

徳本委員。

○徳本光香委員 日本共産党、徳本光香です。平成31年度の決算に反対の討論をいたします。

初めて決算の審査をさせていただきました。子どもたちが暑い中過ごさなくて済んだのはエアコン設置の結果ですし、熱中症が発生したときも素早く対応してくださったことなど、素晴らしい事業があることもいろいろ知ることができました。それ以上にとても気になり、賛成できないという内容があったため、反対いたします。

まず1つは、再三申し上げていますが、文化会館大ホールのことです。昨年度、平成31年度に、当初予算計上もされずに、そして、市民にも議員にも説明もなく調査がされ、そのことが発端となって、

安全でない工事を進め、結果、今後5年間かけて工事に向けて話し合いがされるという流れができてしまいました。発端となった説明のない重大事項、隠したわけではないと信じておりますが、こういったことは二度とないように、まず説明をしていただきたいというふうに思っています。

また、次に、皆さんが御自分のされたお仕事に対して、自己評価や分析、改善などについて、資料を作っていらっしゃると思いますが、そういったものも確認させていただきました。そして、審査の場では、特に私としては市民の要望が強いもの、そして、福祉に関するものについて、課題と対策が認識されているかどうか、意識されて事業が進められているかどうか注目して質問を続けました。結果、気になったことを具体的に申し上げます。

まず、廃止するサービスについて当事者の意見を聞いていなかったこと、また、適応指導教室など、担当課の評価には人手不足が書いてあるのにもかかわらず、管理職の方が認識しておらず、改善につながるか不明であったこと、大事な資源、財産にもなるごみの減量化ですね、ごみが減量化されれば、その処理費用が浮いて何千万円も作れるという事業にも関わらず、ごみ有料化以外の対策を聞いても答えがなかったこと。

一部の市民や議員の強い反対を押し切って、何十億円もかけて始めた新しい給食センターの初年度の総括も、成果をお聞きすると、1人分の人件費の削減という言葉が繰り返され、残渣率の減少への具体的な対策が出てきませんでした。食べ残しが多いということは、せっかくカロリーや栄養を栄養士が計算しても、子どもの栄養になっていないということです。このことを重く受け止めて考えていただきたいと思いました。

また、公共交通について、市民の不満が非常に高いのが分かっているながら、バスについての署名を無視するような審議、決定がされたこと、市民活動の縮小につながるような規則の改定がされたこと、そういったことも気になります。

民間バスと市のバスの役割分担をするというのは、議員は何度も説明を受け理解していることですが、市民は知っているのでしょうか。バスについての分析の内容も非常に疑問でした。資料を見ると、バス利用者の何万人もの減少の理由を、人口減少や少子化、高齢化が原因だと書いてありました。でも、市民の不満の声、前のようなバスの運営に戻してほしいという意見を何度も聞いている私にとっては、何万人もの利用者減少が人口減少が原因だとは思えないんです。本当にきちんと分析できているのでしょうか。

鉄道交通に至っては、今回の広報にも北総線の宣伝がありました。運賃が高いから乗りたくないのに、広報で北総線の経営安定を目指して宣伝までして、そして、値下げにつながると書いてある。これは確かに白井市の鉄道交通推進事業の方針どおりですが、どこを向いているのでしょうか。こういう方針を続けると市民の心は離れるばかりだと思います。

こういった決算までの事業を私なりに見たところ、それを適切に分析して、課題を見つけて改善につなげるということができていない事業が幾つかあると思いました。そういうやり方をしているのは白

井市はよくなっていかないと思います。もっと客観的で納得できるような分析をしていただきたいと思います。

職員の皆さんは、非常時にも対応しながら、残業もしながら頑張ってくださっていると思います。もしそういった努力の日々の仕事を振り返ったり、改善する暇がないのであれば、それは正規職員を減らしていくという市の方針が間違っているということを示していると思います。これに対してもしっかり体制を整える必要があるのではないのでしょうか。

しかし、最後に、質問にきちんと真摯に答えてくださり、課題と対策を十分に答えてくださった担当課も多くあり、私の知らなかったすばらしい事業を続けてきてくれたことを知ることができました。また、それを審査する議員の側も、過半数の議員がふだんの審議会の傍聴もしていないということは、決算審査をする上でも問題だと思います。私自身もっとふだんから市の職員の方たちの仕事をきちんと見るようにしたいと思っています。議員も行政の側も反省してこそいい白井市につながれると思います、改善を願って、今回の決算には反対いたします。

以上です。

○岩田典之委員長 次に、賛成討論の方ございますか。

和田副委員長。

○和田健一郎副委員長 賛成の立場で討論させていただきます。

平成31年は、様々な天災含め、あと、白井市としても新規事業がある中でございました。大枠としましては確かに様々な課題があると思いますが、これは今後の改善につながっていくものといったところで、大きく分けまして3点述べさせていただきます。

まず、税収の面に関しましては、これは平成31年は当初予算よりも市税が伸びたというものの、ただ、予想の人口よりも増えずにいた、本来6万5,500人の人口という予想もありましたが、現在は6万3,215人、8月末で、昨年度でも、ピークアウトしたときでも2,000人以上差があったということもありまして、今後の税収に関してはやはり、監査の方も述べていたとおり、楽観できない事実であると思います。

ただ一方で、市の改善としての部分ですけれども、特に平成30年の小・中学校の空調導入のときに問題となった1つには、ふるさと納税の他市町村への流出があったと思います。その中で、今回の決算に含めても、伸び率が非常に高く、まだ大幅な改善ということでされたということも大きくあるかと思っています。ここに関して、私もいろいろと提案させていただいたところがございますが、これからも皆で頑張っていかなければいけない部分であるかと思ひまして、やはり言うのはなかなか簡単のところではありますが、実行して結果を出すという、この産みの苦しみというのを、我々皆が背負いながら頑張っていくものだと思っております。

それで、2点目に関しては、ちょっと技術的な分野について、マニアックになっては恐縮なのですが、私なりに今回のことで感じた点を大まかに挙げたいと思います。

まず、LEDに関しては、万能なものかといったら、実はデメリットもございますので、その留意点を注意していただきたいなところがございます。防犯灯等でも全部今LEDになっているのですが、ただし、当初予定されていたよりも、10年以上の寿命があると言われたのですが、その寿命が10年以内で尽きてしまうというケースも多くありまして、電力換算で安くなると思っていたらコストが高まったという事例もやっております。その原因としましては、LED自体が発熱する熱によって寿命が縮まるといった原因や、あと、紫外線といったものもございます。なので、導入に関してはそのエビデンスを含めて慎重に選定していかなければ、安物買いのという、そういう言葉もあるので、これは留意しておかなければいけない部分じゃないかと思っております。

さらには、ドローンの活用ということでいろいろとございますが、例えば、航空写真が今回70万円ということでやっていたと思うんですが、恐らくドローンを活用した場合でしたらもっとリーズナブルにできるのではないかと思っております。ただ、もちろん成田空港に近いので、法的規制といったところは白井市もありますので、その分の課題も検討していきながら、こういう部分で最先端技術も含めての導入ということで、コストに見合ったものができるんじゃないかと思っております。

さらには、給食の残渣率、先ほども問題になったと思いますが、委託業者に関してもあると思うのですが、電子的な形で、恐らく毎日の記録というものが、もう見える化して公表することができると思います。その中でどういうメニューが残渣率が高くて、あと人気があったものというの、以前のようなマンパワーで調べるよりもかなり楽になったことは間違いのないと思います。そういう中で、まず、初めての、1年目ということであったら課題ということであったのですが、そういう中で、もちろん栄養も大事ですが、その中でノウハウ、エビデンスということで、改善にもつながっていくんじゃないかと思っております。

それから、公共料金等のクレジットカード、こちらちょっと水道のときにも触れさせていただいたのですが、最近では導入する自治体も増えております。白井市としまして、以前はたしか高額な手数料がかかるということで見送られていたということもあったと思いますが、近年はそういった手数料も下がってきたり、さらには、ちょっと飛びますが、以前からやっていた北総線に関しても定期券も4月1日から導入するといったことで、以前は難しいと言われていたものが現実となっているところもございますので、これは白井市としても、可能なものであると判断できた時点で随時導入していくといったところが現実的な視野になったと思っております。

また、こういう細かいところは詳しくなると長くなっちゃうので、また改めて別の機会に言わせていただきたいと思います。

さらに、最後に、北総線に関してでございますと、やはり今後市の歳入の部分で、雑入のほうに入っていたと思います。ある長く続いた、もともとは北総線が発端だったと思います、その訴訟を巡って、3年前の2017年の臨時議会で市側から言われた金額よりも、結局は、結果としては少なくなったというところもございました。これに関して、過ぎてしまったこととはいえ、結果としては市側の、



いわゆる市民の税金ということでのマイナスという形になったことなども含めまして、やはり今後、ある意見でございましたら、勝者なき戦いだっただのではないかという意見もよく聞かれることと思いますが、今後の教訓にしたいと思うのは、もちろん私だけではないと思います。

その中で、北総線に関することと言えば、いろいろと一步一步進んでいることもあるかと思えます。その中で粘り強く頑張っていくことが大事じゃないかと思ひまして、今後の提言も含めまして、賛成討論とさせていただきます。

以上です。

○岩田典之委員長 次に、反対討論の方ございますか。ほかに討論はありますか。討論よろしいですか。

〔「なし」と言う者あり〕

○岩田典之委員長 これで討論を終わります。

これから採決いたします。

決算審査特別委員会に付託されました議案第10号は原案のとおり認定すべきものと決定することに賛成の方は御起立願います。

〔賛成者起立〕

○岩田典之委員長 起立多数です。

したがって、当委員会に付託されました議案第10号は認定することに決定いたしました。

(2) 議案第11号 平成31年度白井市水道事業会計決算の認定について

○岩田典之委員長 日程第2、議案第11号 平成31年度白井市水道事業会計決算の認定についてを議題といたします。

質疑は既に終了しておりますので、討論を行います。

初めに、反対討論の方ございますか。

次に、賛成討論の方ございますか。

討論はよろしいですか。

〔「なし」と言う者あり〕

○岩田典之委員長 これで討論を終わります。

これから採決いたします。

決算審査特別委員会に付託されました議案第11号は原案のとおり認定すべきものと決定することに賛成の方は御起立願います。

〔賛成者起立〕

○岩田典之委員長 起立全員です。

したがって、当委員会に付託されました議案第11号は認定することに決定いたしました。

以上で当委員会に付託されました案件の審査は全て終了いたしました。慎重なる御審査を賜りましてありがとうございました。

よって、本日は散会いたします。

次回は10月5日月曜日午後、大委員会室において決算審査資料の見直しに係る協議を行います。

## 市長の挨拶

○岩田典之委員長　ここで、笠井市長より御挨拶があります。笠井市長、よろしく願いいたします。

○笠井喜久雄市長　委員の皆様、5日間に渡りお疲れさまでした。決算審査特別委員会の閉会に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

岩田委員長をはじめ、委員の皆様には慎重なる御審議をいただき、誠にありがとうございました。2議案とも承認をいただきました。各委員からいただいた御意見、提案等踏まえまして、今後も予算の適正な執行に努めてまいります。現在令和3年度の予算案の編成作業を進めているところでございます。決算審査特別委員会の中でいただきました御提案や意見につきましては、予算編成の中で十分検討させていただきます。

現在コロナ禍により大変厳しい状況ではありますが、私はこの白井をもっと豊かにして、次の世代に引き継ぐため、引き続き行財政経営改革に努めてまいります。

今後も議員の皆様には一層御指導と御協力を賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが私の挨拶といたします。どうもありがとうございました。

○岩田典之委員長　ありがとうございました。

以上で終了いたします。御苦労さまでした。

散会　午後　0時03分